

## 助成事業実施報告書

団体名 社会福祉法人カリヨン子どもセンター

代表者・役職名 氏名 理事長 相川 裕



### ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

### 1. 助成プロジェクト名

環境整備事業(ガス管工事)

### 2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

2004年6月に日本で初めての子どもシェルター「カリヨン子どもの家」を運営するNPO法人として活動開始。自立援助ホーム「カリヨンタヤけ荘」と「カリヨンとびらの家」を開設。2008年3月社会福祉法人認証を受ける。寄付支援者は毎年300名程度。入居者は法人全体で毎年35名程度。児童福祉職員が、弁護士や児童相談所等、多機関と連携しながら主に10代後半の子どもたちを支援しています。

### 3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

「カリヨンタヤけ荘」は2006年3月江戸川区で開設、2016年7月に寄付をうけた大田区の建物へ移転しました。建物は築50年以上の木造建築で、移転に際して躯体や造作への修繕工事を施しましたが、ガス管工事は行いませんでした。2018年9月ガス会社の定期検査にて、ガス管の老朽化を原因として、敷地内へ微量なガス漏れがあることが判明し、応急処置を施しました。子どもたちの暮らしの安全を守るために、ガス管の取替え工事が必要でした。ガス管取替え工事は、所有者の判断によるものとされ公的補助もなく、大きな出費であると頭を悩ませていました。

### 4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

ガス会社による老朽化したガス管の撤去、および新しいガス管への取替え工事を行いました。

### 5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生じた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

ガス管の取り換え工事が無事に完了し、ホームで暮らす子どもたちを、ガス漏れによる体調不良や引火等の事故から守ることができる、安全な環境を整えることができました。当該ホームは、近隣家屋と密接した住宅街の中にありますため、地域・近隣住宅への安全配慮の責任を全うすることもできるようになったと思われれます。また、法人においては、所有する不動産については、こうしたライフラインに関する整備が必要になることがある中長期的な視野をもつべきという学びとなりました。

### 6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

2016年7月の移転時の修繕工事にて、当該ホームの修繕費のための積立金を使い切っており、通常の公的な運営費補助ではぎりぎりの経営状態でありましたので、予期しないこのたびのガス管工事について、真如苑様よりご助成をいただいたことは、本当に幸甚でした。しかしながら、今後も先々の修繕等のため、資金積立計画を実施していくことが、当該ホームひいては当法人にとっての大きな課題であると実感をいたしました。

### 7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり

